

書籍紹介

『支笏湖の人と自然』 2007年3月刊 支笏湖の人と自然編集委員会編

「支笏湖の水とチップの会」(西島浩会長)は1988年に結成され、現在会員38人で構成されている。20年にわたる活動の中には我が国第二の深さを誇る支笏湖の水面から湖底に至る水温や水質を1年余りに亘って観測したり、360mを超える湖底の底質を採取するなど困難な調査を手弁当で行なってきた。グループで行なったこのような大がかりな調査や小グループで行なう小規模な調査や解析検討結果は毎年刊行してきた会誌「かばっ・ちえぷ」にその都度報告されてきた。10周年に「支笏湖シンポジウム」を開催したが、資金難がネックとなり同誌は11号をもって休刊状態になっていた。

その後、それまでの成果をまとめるべく会誌に掲載された論考の見直しや新たに執筆依頼するなどして、構想から7年をかけ、昨年「支笏湖の人と自然」という585ページにのぼる大部の書物を出版した。結果的に20周年を記念した刊行となった。本書は2部構成となっており、第1部では30名あまりの著者が支笏湖と周辺の動・植物・岩石・鉱物・水・気象等、支笏湖に関連する自然の事象とそこに住む人々とのかかわりなど、多岐に亘る話題を取り上げている。その他にも湖にまつわる様々な話題を織り込んだ28編のコラム欄も収録した。

第2部では、支笏湖に関わる各分野の資料を自前の分も含めて(1,350種に及ぶ昆虫リスト他)多数収集掲載されており、資料的価値も高いものになっている。必ずしも全てを読み通すのは容易ではないが、どこから読んでも良いように工夫されており研究者はもとより一般、高校生にも広く勧めたい書物である。

(文責：岡田 操)



第1部 本編

第1章 支笏湖の生い立ち (1~34 pp)

支笏湖の地形、支笏湖と周辺の地質、支笏湖の形成、支笏湖と周辺の将来

第2章 支笏湖の自然環境 (35~1144 pp)

支笏湖の環境変遷史、支笏湖の水環境、支笏湖の物理・化学、支笏湖の気象環境、支笏湖と温泉、支笏湖周辺の災害

第3章 支笏湖の生き物 (115~198 pp)

動物(哺乳類・両生類・爬虫類・ヒグマ)、水生生物(淡水魚類相・大型水生無脊椎動物・トビケラ・プランクトン)、ヒメマス(チップ)、鳥類、昆虫、植物(植生・水生植物・地衣類・キノコ相)

第4章 支笏湖と人々の暮らし (199~232 pp)

先史時代、歴史時代(アイヌの時代)、近・現代(和人の進出)、産業(鉱業・林業・観光・レジャー)

第2部 (1~354 pp)

年表、文献目録、チップの歴史資料、生物目録、岩石鉱物目録、水質調査データ、底質調査データ、気象データ、日水位データ、会誌目次

本書は自費出版なので一般書店では取り扱っていない。教育機関等に配布寄贈した残部については出版協力費・送料込み5,000円で下記にて取り扱っている。

連絡先：支笏湖の水とチップの会

〒001-0017 札幌市北区北17条西4丁目1番3号(野生生物総合研究所内) TEL 011-700-6737

メールアドレス：office@wildlife.co.jp